

5.16

■司会 井関 嘉昭<長崎県> 琴海町教育委員会派遣社会教育主事
中島 慶子<佐賀県> 佐賀県立生涯学習センター

1. 生活体験学校と家庭教育との連携の一方策

14:15~14:40

—生活労働調査を中心に—

永見かおり<福岡県> 福岡県立大学大学院人間社会学研究科生涯発達専攻

嘉穂郡庄内町で行われている通学合宿の参加者小学校3年~5年とその保護者に対して、家庭における土・日の生活労働についての調査を行った。その結果、平常よりも、参加する直前、直後の方が生活労働に取り組む傾向がみられた。また、調査を行うこと自体が生活労働の動機付けとなっていることがわかった。

2. 学校現場における「学社融合」への段階的取り組み

14:40~15:05

桑原 広治<熊本県> 人吉市立大畑小学校教頭

大畑小学校では現代的課題の分析、学社融合論の検討を行い、昨年1年間、全ての教育活動に生涯学習の視点を取り入れると同時に、PTAを巻き込んだ様々な活動を展開してきた。何から手をつけたのか、誰がリーダーとなって進めてきたのか等、具体的な実践活動の内容や考え方、今後の課題・展望について発表を行う。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

3. 子どもたちのまちづくり体験 —東多久駅の美化活動を中心に—

15:40~16:05

牛丸 和人<佐賀県> 多久市立東部中学校教諭

「まちづくり」は地域住民全員の課題であり、当然、そこには子どもたちの参画の場がなければならない。今回は無人駅となり荒れ果てた駅を見て「自分たちの住んでいる町の駅が汚いのは恥ずかしい。」という子どもたちの意見から駅のリニューアルを行った一連の活動を中心に、まちづくりと子どもたちの関わり方、活動の成果、今後の課題について考察を行う。

4. 国立青年の家における学社連携の実践と考察 —主催事業を通して—

16:05~16:30

門司 幸男<熊本県> 国立阿蘇青年の家主任専門職員

国立阿蘇青年の家では、学社連携を意識した様々な事業を展開してきた。今回は、小学生や中学生が施設から学校へ通学する「生き生き自立友愛寮」事業や大学と連携して講座を提供する「ジョイント・カレッジ in 阿蘇」事業等の紹介を中心として、学社連携の成果と課題、今後社会教育施設が担うべき役割について考察を行う。

5. 総括討論

16:30~17:00